

第30回 医学教育指導者フォーラム開催要綱

趣 旨	大学医学部における医学教育の改善並びに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換並びに討論を行う。
主 題	明日の医学医療を支える人を選ぶ：入学者選抜
主 催	公益財団法人 医学教育振興財団
期 日	平成30年7月24日（火）
場 所	東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂（3階） 105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8 電話：03-3433-1111（大代表）
参加者	国公私立医科大学学長、医学部長、医学部附属病院長及び教務委員長等
参加費	5,000円
講 師	Professor Kevin Eva (Associate Director and Senior Scientist, Centre for Health Education Scholarship / Professor and Director of Educational Research and Scholarship, Department of Medicine, The University of British Columbia, Canada) Professor Sally Curtis (Professorial Fellow Education, BM6 Programme Leader, Faculty Widening Participation Lead, Medical Education, Faculty of Medicine, University of Southampton, UK) 山田 泰造 文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長 大内 淑代 岡山大学医学部医学科長・入試委員長 前野 哲博 筑波大学医学医療系地域医療教育学教授

日 程

09:00 ~ 10:00	受 付		進行) 医学教育振興財団事務局長 和氣 太司
10:00 ~ 10:20	開 会	〈開会挨拶〉 〈挨拶〉 〈趣旨説明〉	医学教育振興財団理事長 小川 秀興 文部科学省高等教育局医学教育課長 西田 憲史 東京慈恵会医科大学教授/教育センター長 福島 統
10:20 ~ 11:20	講演 1	Who will look after your loved ones? Striving to optimize the selection of applicants	Kevin Eva
11:20 ~ 11:50		〈質疑応答〉 司会)	東京女子医科大学理事長・学長 吉岡 俊正
11:50 ~ 12:50	昼 食		
12:50 ~ 13:50	講演 2	Reducing exclusivity and increasing inclusivity - Creating a medical profession reflective of society	Sally Curtis
13:50 ~ 14:20		〈質疑応答〉 司会)	東京慈恵会医科大学理事長 栗原 敏
14:20 ~ 14:30	休憩		
14:30 ~ 17:00	総合討論「明日の医学医療を支える人を選ぶ：入学者選抜」	司会) 日本医学教育学会理事長	鈴木 康之 山田 泰造 大内 淑代 前野 哲博
17:00 ~ 17:10	閉 会	〈閉会挨拶〉	医学教育振興財団理事長 小川 秀興
17:20 ~ 19:00	レセプション		

明日の医学医療を支える人を選ぶ: 入学者選抜 (趣旨と背景)

福島 統
東京慈恵会医科大学教授/教育センター長

平成 26 年 12 月 22 日に出された中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」から大学入試についてのコメントを引用する。「18 歳頃における一度限りの一斉受験という特殊な行事が、長い人生航路における最大の分岐点であり目標であるとする、我が国の社会全体に深く根を張った従来型の『大学入試』や、その背景にある、画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を一点刻みに問い、その結果の点数のみに依拠した選抜を行うことが公平であるとする、『公平性』の観念という桎梏は断ち切らなければならない。(中略)先を見通すことの難しい時代において、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが高等学校教育及び大学教育の使命であり……」。今まで、入学試験の点数を重要指標として入学者選抜を行うように指導してきた文部科学省が、一転して、筆記試験のみで入学者を決めるべきではないと公言したのである。さらに、平成 28 年 3 月 31 日の高大接続システム改革会議「最終報告」では、「多くの大学では、知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの単なる適用の評価に偏りがちで、思考力等を問う問題であっても、答えが一つに限られている設問が多い。卒業認定・学位授与の方針を体現する学生として卒業し社会で善き人生を歩むことができる潜在力を持っているかどうかを、各大学が入学者受け入れの方針に基づき判定すること」とあり、大学教育と社会との接合性を重視している。

医学部入試でよく知られていることではあるが、入試成績(筆記試験)と入学後の学業成績は相関しない。英国では、一定の高等学校の成績を収めた受験者に対し、Interviews (MMI)、References and referee's report、Personal statement and autobiographical submissions、Academic records、General mental ability and aptitude test (UKMAT)、Personality inventories、Selection centre、Situational judgement tests など多様な選抜方法を組み合わせ、社会が求める医師になる素質のあるものを選ぶ努力を行っている。入学者選抜とは、特に医学部の場合、医師になる適格性があり、税金をはじめとする多大な教育資源を投入する意味があり、卒業後医師という職業を通して社会貢献・他者貢献することのできる人を選ぶ責任が医学部にはある。しかも新しい入試は、2021 年の 2 月、3 月に行われる。

今回のフォーラムでは、筆記試験だけによらずに医学部入学生を選抜している英国、北米での経験を知り、2021 年に行われる入試改革への示唆を得るだけでなく、英国で行われている widening participation、すなわち通常の選抜では医学部に入学しない経済的背景や社会背景を持つ学生を医学部に入学させ、医師になるものの多様性の確保についても紹介する。国内の演者からは、文部科学省がこの入試改革に寄せる思い、国際バカロレア入試による資質・能力をもとにした選抜、そして今後の我が国の医学部地域卒のあり方を入学生の多様性の確保という視点から議論することで、明日のわが国の医学医療を担う医学部生をどのように選抜していくのか、医学部の社会的責任の観点から議論を深め、2021 年の入試改革に備えたい。